

熊本県・山都町

清和文楽

with 阿波人形浄瑠璃

2023年

12 | 17

日曜日

13:30～16:00

会場 徳島県立
阿波十郎兵衛屋敷
入場料 一般 410円
高・大 310円
小・中 200円

熊本県の清和文楽は、江戸時代嘉永年間(1860年頃)に、巡業に訪れた淡路の人形座から人形を買い求め、技術を習ったのが始まりと言われています。また、初代天狗久をはじめ阿波木偶を所有するなど徳島とも関わりの深い人形座です。

平成4年に九州唯一の人形浄瑠璃専用の劇場「清和文楽館」が開館し、年間約200回の公演を行う他、新作も手がけるなど活発な活動を続けています。

ぜひこの機会にご鑑賞ください。

雪おんな
— 小泉八雲 原作

寿式三番叟

主催 | 清和文楽人形芝居保存会
一般財団法人清和文楽の里協会
徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
徳島市川内町宮島本浦 184
Tel.088-665-2202、Fax.088-665-3683
awajurobeyashiki@mf.pikara.ne.jp



●デジタル襖からくり
今回の公演では、農村舞台の襖絵をデジタル撮影し、コンピュータのプログラムで自在に転換させるデジタル襖からくりを背景に使用します。

プログラム

五穀豊穰、天下泰平を願う

13:30~14:00 寿式三番叟と清和文楽のお話し

太夫／岡本翔 三味線／渡邊奈津子 人形／清和文楽人形芝居保存会

阿波人形浄瑠璃の定番

14:00~14:45 傾城阿波の鳴門 順礼歌の段

太夫／久次米三枝子 三味線／鶴澤友丸 人形／阿波人形浄瑠璃研究会青年座

14:45~15:00 休憩

小泉八雲原作、清和文楽オリジナル作品！

15:00~16:00 雪おんな

太夫／岡本翔 三味線／渡邊奈津子 人形／清和文楽人形芝居保存会

清和文楽人形芝居保存会

寿式三番叟

「三番叟」は天下太平、五穀豊穰、家内安全を祈願するご祝儀の舞です。お正月や舞台の幕開けなどに演じられる、おめでたい演目です。

足を高く上げ、大地を踏みしめて、土の中に潜む悪霊を追い払い、稲穂をかたどった鈴と扇で種をまきます。その後、長寿を象徴する鶴亀の舞を、二人の三番叟がヘトヘトになるまで舞い踊ります。

雪おんな

【原作】小泉八雲 【脚色】半藤一利 【演技指導】豊竹嶋太夫

【作曲】鶴澤清介

●平成14年9月完成

南国のイメージが強い九州でなぜ「雪おんな」なのか？疑問に思われる方も多いと思います。かつて旧清和村は九州では大変雪深い土地で、冬には雪が吹き込み積雪も膝下まで達するほどでした。親たちは子供をたしなめるのに『ゆきんじょ』が迎えに来るぞと脅かしたものです。この『ゆきんじょ』が雪おんなの事ではないかと思われま



あらすじ

若い木こり巳之吉は、年老いた茂作と薪木取りからの帰り道、吹雪にあってしまう。たどり着いた船頭小屋で、茂作は「雪おんな」の言い伝えを巳之吉に話します。いつしか眠りにつく二人。だが、茂作に覆いかぶさる真っ白い着物の女に巳之吉が気づきます。その女は、「私を見たことを人に話したならば殺す」と巳之吉に言い渡し雪の中に消えて行きます。茂作はすでに息絶えており、あまりの恐ろしさに巳之吉は気を失うのでした。

数年後、巳之吉は、山仕事の帰り道で偶然出会ったお雪という娘と結ばれます。色白で気だても良く、娘が生まれた後も、美しさは変わらなかった。互いに思いやる日々の中、ある日、巳之吉は土産に赤い櫛を買ってくる。髪にさし、更に色香を増すお雪の姿を見てるうちに、巳之吉は吹雪の夜にあった雪おんなの顔を思い出す。お雪の顔は、雪おんなとうり二つであった。

その夜の話を聞かせてとせがむお雪に、巳之吉は重い口を開いてしまう。眼光鋭く雪おんなへと変身したお雪。一度は巳之吉に覆いかぶさるものの、母としての情にほだされて、娘の養育をきつく言い置くと、お雪は降る雪の中へ消えて行くのだった。

阿波人形浄瑠璃

傾城阿波の鳴門 順礼歌の段

盗まれた主君の刀を詮議するために阿波の十郎兵衛、お弓の夫婦は盗賊に身をやつし、大阪玉造に住んでいます。仲間から、今にも追っ手がこの家へ来るのですぐに逃げるようにとの知らせを受けたところへ、巡礼姿の娘お鶴がはるばる徳島からやってきます。お弓はすぐに我が子とわかりますが、ここで親子の名乗りをしたのでは、お鶴も巻き込んでしまうと考え、涙をのんで別れるお弓。しかし、お鶴の歌う巡礼歌にたまらず後を追ってしまいます。